

愛産研 ニュース

愛産研ニュース
平成 15 年 7 月 4 日発行
No.16

編集・発行
愛知県産業技術研究所 企画連携部
〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割
TEL 0566(24)1841・FAX 0566(22)8033
URL <http://www.aichi-inst.jp/>
E-mail info@aichi-inst.jp

7 月号
2003

今月の内容 ●メード・イン・尾州「ものづくり」支援の研究会活動
●織物表面形状のシミュレーション
●ポリエステル繊維の酵素処理

メード・イン・尾州「ものづくり」支援の研究会活動

これまでにない繊維産地の苦境は、主に生産基地の中国への移行という構造的な背景によるものですが、このままでは国内製造業を担う「ものづくり」の匠たちはいなくなってしまう。最近、繊維製品は、低価格品だから売れるという時代ではなく、満足感、充実感を得られる質の高い製品へのニーズが強くなってきました。このような中で産地が目指すべき道は、「ものづくり」の匠の力をこれまで以上に活かし、新しく質の高い製品開発を行い、絶え間なく消費者、流通市場に提案できる体質を築くことです。

このようなことから尾張繊維技術センターは「尾州産地独自のオリジナル製品」の開発に取り組みました。産地テキスタイル企業と名古屋地区メンズアパレル企業のデザイナーや技術者から構成される「21世紀アパレル製品開発研究会」会員のコラボレーション活動を当センターが技術支援し、高いオリジナル性のある製品を開発しました。

これらは、「人と環境にやさしい」紳士服をテーマにしたもので、その一部を紹介します。

①中級原料使いの毛織物にオゾン処理防縮加工（環境に悪影響を及ぼさない加工）を行うことでフェルト収縮しないようにし、その生地を何回ももみ洗いすることで、高級原料レベルの風合に仕上げる技術を開発しました。②毛織物を縮絨と特殊な樹脂で加工することによりウール100%で皮革タッチの織物を開発しました。高い防縮性のため水洗い可能で、元々は毛織物なので通気性、ストレッチ性に優れているなどの機能を備えたこれまでにない新素材です。③人と環境へのやさしさを配慮した日本独自の製品を創るため、和紡糸（日本古来の紡績糸、ガラ紡糸ともいう）を漢方薬染料で染色しました。生地は軽くソフトで、そのイメージを強調するため、衿と袖のつくりを変え、羽織る感覚のジャケットに仕立てました。④なめらかな手触り感ときれいなドレープ性をねらい、極上の羊毛原料を延伸し、異形断面形状に加工した糸を用いた毛織物を開発しました。生地は、従来のウールギャバジンとは全く異なるなめらかな風合を得ました。⑤尾州の伝統を引き継ぐ織物技術により、絹巻き糸使いのダブルクロス、本物志向のソフトフラノを創りました。充実した満足感を感じさせる復古調の素材となりました。

尾張繊維技術センターは、高度な技術開発と共に、県内中小企業に早急に役立つ研究会活動を重視し、産地オリジナル製品開発のコラボレーション活動を支援しています。今後はこれらの活動を有効なものにするため、小売など流通関係者も研究会に参加していただき、製品開発を行う予定です。最終的には「世界で売る」製品を創ろう、という思いを常に持ち続けながら、産地の革新につながる支援活動を行いたいと考えています。

